

基本情報

施設名	小学館アカデミーりょくえんとし保育園
所在地	神奈川県横浜市泉区緑園 2-2-3
電話番号	045-812-7112
評価年度	平成 28 年度
評価機関	株式会社 R-CORPORATION

評価方法

自己評価	
(実施期間) 平成 28 年 7 月 15 日～ 平成 28 年 8 月 5 日	自己評価票を正規職員に配付し、合議を図り、その後、園長・主任で取りまとめた。
評価調査員による評価	
(実施期間) 平成 28 年 10 月 4 日 平成 28 年 10 月 5 日	評価調査者 2 名が、2 日間を通し、保育園内の視察、保育内容、園児の観察、書類確認及び園長、職員との面接、ヒアリングにより評価を行った。幼児の食事の観察を行い、子どもの遊びの様子及び延長保育の観察を実施した。
利用者家族アンケート	
(実施期間) 平成 28 年 8 月 16 日～ 平成 28 年 19 月 6 日	アンケートを各家庭に配付し、投函していただいた。
利用者本人調査	
(実施期間) 平成 28 年 10 月 4 日 平成 28 年 10 月 5 日	調査者 2 名で全クラスの保育環境の視察、観察を実施し、保育内容、午睡、食事場面の観察を行い、保育士の関わり方や、0 歳～5 歳児の生活の様子の調査を行いました。

株式会社 R-CORPORATION

第三者評価結果報告書

《総括》	
対象事業所名	小学館アカデミーりょくえんとし保育園
経営主体(法人等)	株式会社小学館集英社プロダクション
対象サービス	保育所
事業所住所等	〒245-0002 横浜市泉区緑園 2-2-3
設立年月日	平成 25 年 4 月 1 日
評価機関名	株式会社 R-CORPORATION
評価項目	横浜市版

総合評価

●小学館アカデミー保育園の概要

小学館アカデミーりょくえんとし保育園は、株式会社小学館集英社プロダクションの経営です。株式会社小学館集英社プロダクションは東京都千代田区に本社を置き、1都3県に認可、認証保育園を展開し、神奈川県下では川崎市・横浜市に認可保育園を運営し、「楽習保育®」を特徴とした保育理念により、小学館アカデミー全園で一貫した保育を実践しています。小学館アカデミー保育園は、保育理念である『「あったかい心」をもつ子どもに育てる』を全園で共有し、7つの基本方針をベースに、「楽習保育®」を中心した、保育環境（ラーニングセンター、みどりのあそび場、小学館ライブラリー）と、保育活動（遊び、生活）の両立を目指し、「あそび・せいかつ」から「まなび」へ導き、理念の実現に向けて保育を展開しています。保育内容は、各項目に法人のポリシーを取り込み、詳細に精緻に構成が成され、これらは教育研修にて全職員で意思統合を図り、理念に沿った保育を展開しています。

●小学館アカデミーりょくえんとし保育園の立地・とりまく環境

小学館アカデミーりょくえんとし保育園は、相鉄線緑園都市駅から徒歩2分のところにあります。園が位置する緑園都市は、都市生活の利便性を追求しながらも緑豊かな美しい街並みを構想し、歩行者専用道路「四季の径」は横浜市第3回美しい街並み優秀賞を受賞し、街路樹の緑陰が街並みのデザインの一部となり、清々しく洗練された街です。また、住宅地と商業施設は明確に分離され、美しい街並みを街全体で環境維持に努める意識の高い街であり、小学館アカデミーりょくえんとし保育園は自治会とのルールや融合を図り、美しい街並みとも共生している保育園です。園舎は、保育園専用2階建ての上品な落ち着いた井手たちで、園舎周りの柵も景観に配慮された造りになっており、良好な陽当たりで最適な環境を整えています。

《優れている点》

1. 楽習保育®の確立

小学館アカデミー保育園では、首都圏の保育園を開設以来、理念を『「あったかい心」をもつ子どもに育てる』に据え、保育の柱を「楽習保育®」に置いて推進してきました。10年余りの進捗により、楽習保育®は「ラーニングセンター」、「本育®」、「ネイチャープログラム」、「リズムック」、「コミュニケーションプログラム」、「入学準備プログラム」が固定

化され、楽習保育では「®」（商標登録マーク）を取得し、楽習保育®を柱として確固たるものに成長しました。本部の企画力、各園の実践力が相乗して「楽習保育®」の成長を支え、今後さらなる展開の基礎が確立されたと評価できます。

2. 本育®の推進

楽習保育®と共に、本育も「®」（商標登録マーク）を取得し、「本育®」として推進しています。楽習保育®との違いは、“楽習”保育として身近に楽しく保育の柱に据えた保育理論、システム性にあるのに対し、本育®は、本、絵本の活用により子どもの豊かな成長を育むプロセスにあると考えます。法人事業の基礎である「本（活字）」を表現した、本育®のイラストもできました。ハードの面での小学館ライブラリーの充実と共に、ソフトの面での“1日1回の読み聞かせ”に力を入れて連動を図り、保育の根幹の1つとしてさらなる本育®の発展に期待されます。

3. 小学館アカデミーりよくえんとし保育園の保育の進化

小学館アカデミー保育園の「楽習保育®」については、園独自に定着を図り、保育の中に自然な形で組み込んで日常に活かされており、基礎となる保育のベースが固まったことは評価に値します。今後はさらに、楽習保育®に加えて、「手づくりの行事」、「りよくえんとしの英語あそび」に力を入れて行きたいと考えています。小学館アカデミー保育園全園で展開されている楽習保育®に小学館アカデミーりよくえんとし保育園独自のローカル色を加味し、園独自の彩が輝いていくことが大きく期待されます。展開に際し、保育士個々の力量が問われてくると考えますので、様々な課題に乗り越えられるスキルを職員と共に研鑽して行かれることを望みます。地域での年齢層は2極化が進み、若い世代の子育ての悩み等も現状聞かれますので、そのような親子をサポートできる力・心のスキルを全職員で身に付けて行かれることを期待しております。

〈さらなる期待がされる点〉

1. 楽習保育®の保育理論化

小学館アカデミー保育園の「楽習保育®」は、保育の幅を広げる点ではほぼ完成に近いと思います。ラーニングセンター、本育®、ネイチャープログラム、リズムック、コミュニケーションプログラム、入学準備プログラムと、やるべき項目は整い、各園の手法もどんどん広がりを見せています。これらをさらに進化させるには、根本となる保育理論の構築が必要ではないかと考えます。例えば、モンテッソーリの保育理論や、ピアジェの構成論などの「構築」です。他は、先に理論ありきですが、「楽習保育®」については実践から構成された理論となれば、保育業界の手本、布石となり、素晴らしい展開が期待できると思います。実践している小学館アカデミー保育園全園をはじめ、小学館アカデミーりよくえんとし保育園の独自展開の保育の姿も内部に留まらず、手本となっていくことでしょう。

横浜市福祉サービス第三者評価結果

小学館アカデミーりょくえんとし保育園

評価年度

28 年度

評価機関

株式会社 R-CORPORATION

領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人)の尊重 領域Ⅱ サービスの実施内容 領域Ⅲ 地域支援機能 領域Ⅳ 開かれた運営 領域Ⅴ 人材育成・援助技術の向上 領域Ⅵ 経営管理

評価領域Ⅰ 利用者本人(子ども本人)の尊重

評価分類

評価の理由(コメント)

I-1 保育方針の共通理解と 保育計画等の作成



●保育理念・基本方針は小学館アカデミー保育園全園共通とし、保育理念に『「あったかい心」をもつ子どもに育てる』とし、7つの基本方針を掲げています。小学館アカデミーりょくえんとし保育園では、7つの基本方針を保護者の目につくよう園内に掲示し、職員にも対しては会議で園長から話を行い、共通認識を図っています。また、保育理念・基本方針に基づき、「楽習保育®」に沿った保育を推進し、年度初めに重点目標化を図り、職員に配付し、保育課程、年間指導計画に組み込み、保育を展開しています。園では、理念に沿って「人に、物に興味をもつ」を基に「個性を大切にする」保育を実践しています。

●理念の「あったかい心をもつ子どもに育てる」の実現に向けて、基本方針に沿い、「思いやり」、「考える力」、「好奇心」、「経験・体験」、「得意の尊重」、「ことばの美しさ、楽しさ」、「地域との関わり」を大切にし、子どもの最善の利益を第一義として、保育課程、園の行動指針、年間指導計画を作成しています。保育課程は年間・月案・週案作成につなげています。保護者に対しては、4月の保護者会で保育課程に基づいた各クラスの保育内容を分かりやすく説明し、特に関心の深い食育についても説明しています。

●保育課程に基づいて年間指導計画を策定し、月間指導計画には必ず子どもの姿やクラスの振り返りを実施して次月に反映させています。保護者へは園だよりで月のねらい(養護と教育)の保育目標を示して伝えています。子どもに対しては、サークル活動(子ども会議)を行い、月の活動等についてインタビュー方式で個々に意見を発表する等、子どもを尊重して進めています。

I-2 子どもの発達や状況に応じた適切な援助の実施



●入園が決定した後の入園前面談（3月初旬）では、子どもと一緒に来園してもらい、提出された児童票（生育歴や家庭の状況）と共に入園面接チェック表を用いて面接を行い、保育の中で配慮すべき点や体調面等を確認し、把握し、必要に応じて連携医、区役所の保健師と連携を図り相談する場合があります。個々の健康、離乳食に関しては看護師・栄養士が対応し、保護者と共有しています。面接後は職員が面接票を作成し、全職員で課題点、配慮点を確認し、個々の情報を共有し、日々の保育に活かしています。入園後は保護者と密に連携し、子どもの状況を確認するようにしています。

●短縮保育（ならし保育）を実施し、期間は子どもの個性や、保育歴、保護者の仕事に応じて相談しながら無理のないように対応しています。園では、子どもが食べる、ミルクを飲むかを重要視し、見極めとして2週間程度を薦めていますが、保護者の都合等を考慮して臨機応変に設定しています。在園児の配慮では、特に0歳、1歳児では保育士1名は持ち上がりとなるよう配慮しています。0歳、1歳児の新入園児に対しては、児童票を記載する担当者を決め、その担当保育士が自然に子どもの担当になっています。保護者への連絡は、2歳児以下は複写式の連絡帳を使用し、保護者へ丁寧な連絡を心がけています。3歳児以上も市販のノートを活用し、必要に応じて子どもの様子を伝えています。

●指導計画はクラスの打ち合せで確認し、月案・週案作成時は、子どもの興味、個々の発達に応じて見直し、クラスの様子についても乳児は各クラス、幼児会議等で現状に合った見直しを図っています。評価、改訂については、保護者との日頃の会話や、懇談会、クラス会等で吸い上げ、保護者の意向を反映させています。

I-3 快適な施設環境の確保




●施設環境について、施設運営の手引きの中に衛生管理マニュアルがあり、園内の清潔に関するチェックリストを基に実施しています。毎日掃除を行い、ソリューションウォーター（次亜塩素酸ナトリウムと同等の抗菌性を保有し、人体に安全な除菌・消臭水）を使用した空気循環器により保育室内の空気を消毒しています。また、全クラスに空気清浄機を設置し、保育室は、陽当たりが良好であり、明るさを確保し、換気は空調管理と共に適宜、窓を開けて自然換気も行っています。保育室の温度・湿度（温度/28℃・湿度/55%を設定）は保育士が毎日チェックを行い、湿度が低い時には濡れタオルでの対応を行い、室内環境に配慮し、快適な環境を確保しています。音、声に関しては特に、外遊びの際の騒音に十分配慮しています。

	<ul style="list-style-type: none"> ●沐浴設備は乳児保育室に備え、乳児は必要に応じて沐浴を行っています。温水シャワーは1階、2階、園庭に設置し、使用後は、次亜塩素酸ナトリウム水やソリューション水で消毒及び掃除を行い、清潔にしています。 ●0歳、1歳児の保育室は、個々の発達段階に応じて環境を調整し、寝食を分離し、活動に合わせてコーナーを設ける等、小集団保育が行えるよう工夫しています。異年齢での交流は、3歳～5歳児での異年齢保育や、朝夕の合同保育時間、園長保育時、また、誕生日会や季節の行事に交流の機会を設定し、交流の場を設けています。
<p>I-4 一人ひとりの子どもに個別に対応する努力</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●0歳～2歳児の子どもおよび、特別に支援が必要な子どもについては、個別指導計画を策定しています。個別の目標・計画は定期的に見直しを図り、また、子どもの発達状況に合わせて柔軟に変更・見直しを行っています。指導計画の見直しに係る重要部分については、保護者に説明し、同意を得ています。 ●子どもの記録としては、定めた書式（入所前面談表、成長発達記録等）により児童票に記録し、記録内容は事務室の鍵付きキャビネットに保管し、職員は閲覧できるようにしていますが、持ち出しは禁じています。重要な申し送り事項は記録し、3月末に新旧の担任間で申し送りおよび、個々の発達に関する見直しを行っています。共有すべき内容は職員会議で報告し、全職員で共有を図っています。
<p>I-5 保育上、特に配慮を要する子どもへの取り組み</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●特に配慮を要する子どもについては、昼の打ち合わせ、職員会議、乳・幼児会議で個別に健康面・行動面・発達面・援助すべき項目について話し合い、記録を残し、情報は各クラスで共有しています。関係機関との連携では、泉区保健センターの保健師や、横浜市戸塚地域療育センター、明治安田こころの健康財団から助言を得られる体制を構築しています ●障害児保育のための環境整備では、建物はバリアフリー対応を整備し、園内に多目的トイレ、エレベーターを備え、環境を整えています。小学館アカデミー保育園全園共通で障害児の受け入れ体制、書式を整えています。園長は、樽町地区の保育・医療機関の連絡会に参加し、家庭支援相談員と連携を図り、障害児保育に関する情報を得ています。泉区保健センターの保健師とは状況報告で連携を図り、訪問および助言・指導を受け、健診時（1歳半、3歳児）では気になる点を伝え、アドバイスを受けています。 ●虐待の定義について、職員は入社前研修で説明を受け、職員同士で速やかに連携が図れるよう体制を整えています。職員は、朝の受け入れの際や着替えの際に視診を行い、保護者の生活環境を把握し、母親の立場に立って寄り添うよう心がけ、時には気になる保護者へアドバイスを行う等、支援に努めています。また、関

	<p>係機関に相談できる体制を整え、児童福祉センター、児童相談所、泉区こども家庭支援課と連携を図っています。</p> <p>●アレルギー疾患のある子どもの除去食対応では、医師の指示による生活管理指導表を提出してもらい適切な対応を行っています。除去食のメニューは、指示書に従って別途作成し、アレルギー児を持つ保護者へ伝えていきます。給食時は、調理室と保育室と連携を図り、専用トレイを用い、受け取り時は確認体制を徹底しています。また、食事環境において除去食での孤立感がないよう席に配慮し、食べこぼしの際も細心の注意を払っています。さらに、災害時におけるアレルギー児専用のスモックを用意し、避難先でも対応できるよう配慮しています。</p>
<p>I-6 苦情解決体制</p> 	<p>●保護者からの苦情などに関して、入園のしおり・重要事項説明書に苦情・相談の窓口、受け付け方法を明示し、入園説明会等で説明し、第三者委員に直接苦情を申し立てることができることをエントランスにも掲示して知らせています。また、権利擁護機関についての苦情解決窓口も紹介しています。要望や意見等を聞く機会として、意見箱をエントランスに設置し、保護者参加の行事後にはアンケートを実施し、運営委員会でも要望を聞き、利用者満足に取り組んでいます。</p> <p>●苦情・要望について園で解決ができない場合は、泉区役所、法人本部に相談して解決できるよう体制を整えています。苦情等については苦情報告書を作成し、職員会議等で周知し、記録は保管および蓄積し、振り返りを行う等、今後に役立てています。</p>

評価領域 II サービスの実施内容

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>II-1 保育内容 [遊び]</p> 	<p>●玩具等は楽習保育®（小学館アカデミー保育園独自の取り組み）のコンセプトで揃え、地震等にも安全に配慮した低い棚に子どもの手が届くよう収納し、自由に取り出して遊べるようにしています。また、ラーニングセンターではテーマを都度設定し、ディスプレイをして子どもの関心・興味につなげています。玩具の設定に関しては、朝夕の合同保育・自由時間・クラス別・園舎内外・年齢別等に応じて使い分け、環境設定を行っています。乳児については、手で遊ぶ、手先が発達する玩具を用意し、発達に応じて年間の前半、後半でクラスの状況に応じて環境を変え、玩具を取りやすくするなど工夫しています。</p>

●園では、カリキュラムに応じて一斉保育と自由保育の組み合わせを実施し、一斉保育では、集団ゲームの機会を捉えて遊びのルールを伝え、社会性を重視し、ルールを守って遊ぶ楽しさを教えています。自由保育では、各年齢で時間を設定して実施し、保育士は子どもの言葉の発見や気づきを大切に、個々の興味・関心を尊重して遊びが広がるよう言葉かけを行っています。例えば、コーナー遊びや、ラーニングセンターを中心に遊びを展開し、子どもの興味・関心につなげています。

●栽培では、園庭のプランターで季節の花や、夏野菜を育て、観察、収穫し、食育活動へもつなげています。園では、地域の農家の方に協力をいただき、じゃが芋の種イモから植えつけ、成長を観察し、収穫まで指導を仰ぎ、子ども達は収穫の喜びを体験しています。飼育では、保育室でカブトムシを飼育し、興味深く観察を行っています。園庭にはビオトープがあり、地域の植物を栽培し、虫が自然と集まり、採集を行う等、身近に自然と触れ合っています。また、緑園都市は自然環境が整備され、散歩では豊かな四季に触れながら、すれ違う地域の方にご挨拶をして交流を行っています。

●幼児クラスでは個々に自由画帳、道具箱を保有し、廃材や折紙等を準備し、自由時間に自分の思いを表現できるようにしています。はさみの使用については、3歳児は周囲の状況を考慮して保育士の見守りや使用時間を決めて使用し、4歳、5歳児は道具箱の中から自由に使えるようにしています。

●子ども同士のケンカの場合は、保育士は危険のないよう見守りながら、子ども同士で解決ができるよう年齢に応じて援助しています。園では、人の痛み、相手の気持ちを知り、理由を理解し、お互いが謝ることができるよう、2歳児後半から伝えて援助しています。異年齢の子ども同士のかかわりについては、年上の子どもには年齢が下の子どもに対して優しく接するよう指導しています。職員は、注意しなくてはいけない場面では否定的な言葉を控え、肯定的な言葉で伝えるよう留意し、一人一人の子どもの特性に合った注意の仕方を心がけています。

●戸外遊びの紫外線対策では、たれ付き帽子を着用しています。子どもの健康状態は、その日の登園の健康状態を把握し、体調がすぐれない場合は、看護師、園長が事務室で個別対応し、安静に過ごせるようにしています。

II-1 保育内容 [生活]



●食事については、子どもの負担にならないよう食べられるに配慮し、残さず食べることについて無理強いをせず、苦手な食材は少量を励ましながら促し、本人の努力を誉め、完食ができるよう導いています。乳児では、自宅での授乳時間に合わせて時間と量を考慮して提供しています。離乳食に関しては離乳食進行表（目安表）に基づいて、後期においては子どもが初めて食べる食材は提供しないよう徹底しています。2歳児以上は子どもと一緒に保育士も同じ給食を食べて楽しい食事時間が持てるように配慮しています。

●4歳、5歳児クラスは就学を見据え、給食当番活動を通して、配膳や盛り付けを行っています。食事はクラス別で摂っていますが、卒園前にはバイキングを行い、合同で食事をする機会を設けています。5歳児クラスの食育活動では、エプロン、三角巾、マスクを着け、トウモロコシの皮むきや、お団子作りを行い、食材や食事への興味・関心につなげています。

●献立は、専用の献立ソフトを活用して園独自の献立を作成しています。季節感のある食材を取り入れ、季節に沿った行事食を提供し、前月末に保護者に配付して、献立表や給食日より献立のねらいを伝えています。子どもが好む献立のレシピは保護者にも提供し、家庭での食育につなげています。保育参加時（行事のない場合）では、1クラス1名の保護者に子どもと同じ量を食べてもらう試食を実施しています。食器は硬質磁器を使用し、食具は年齢、発達に応じて数種類揃え、お箸の長さも年齢に応じて備え、3歳児クラスから無理のない範囲で取り入れています。

●子どもの喫食状況は、栄養士および調理担当者が日々食事の様子を巡回し、給食の残量をグラムで量って記録し、月1回、給食会議を開催し、各クラスの保育士の意見も確認し、献立の改善点や、調理法等の改善に努めています。特に1回目の食べ具合を見て、2回目の献立サイクル（月2週間ごと）の際に味付け、刻み方法等を工夫しています。

●午睡については、小学館アカデミー保育園全園で衛生的なコット（簡易午睡ベッド）を採用しています。昼食や遊びからスムーズに午睡へ導入できるよう、食後に歯磨きを行い、パジャマに着替えて保育士が絵本を読んで静かに睡眠への導入を行い、落ち着いて心地良く眠れるよう雰囲気作りを行っています。眠れない子どもには強要をせず、眠れない子どもには保育士が安心できるよう背中をトントンしながら休息を促しています。SIDSの予防では、0歳児は5分ごと、1歳、2歳児は10分ごと、3歳児は15分ごとにストップウォッチを活用してブレスチェックを行っています。5歳児は、1月頃から午睡時間を無くし、小1準備プログラム（小学館アカデミー保育園独自のプログラム）を行い、就学

	<p>に向けて環境を整えるようにしています。</p> <ul style="list-style-type: none"> ●トイレットレーニングは個人差を尊重し、各家庭と連携して時期を見ながら個々に進めています。お兄さん、お姉さんのパンツに憧れが持てるよう、意識付けを行いながら“パンツ”への楽しみにつなげています。トイレットレーニングの状況は職員会議で把握し、排泄に失敗した際は、子どもの羞恥心に配慮し、不安にならないように留意しながら対応しています。
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [健康管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●健康管理では、感染症マニュアルの中に記載され、入園時の児童票の情報は個別ファイルに綴じ、全職員で子どもの既往症、経過等を把握し、保護者と密に連携を図り情報を共有しています。子どもの健康状態は看護師が中心となって観察を行い、日常の子どもの健康状況は連絡帳や視診で把握し、職員間で情報共有をしています。歯磨きについては、クラスが落ち着いた時期に3歳児から歯磨き指導を実施し、2歳児では食後に口をゆすぎ、保護者に対して夜の仕上げ磨きの大切さを伝えて協力を仰いでいます。 ●内科健診（年2回）、歯科健診（年1回）、身体測定は事前に予定表に明示して保護者に配布し、健診結果は児童票に記録し、結果はその日の内に保護者に伝えています。職員には昼の打合せで個々の結果について共有しています。 ●感染症等について、感染症に関するマニュアルを備え、登園停止基準や保育中に感染症等の疑いが生じた場合の対応は、入園のしおり、重要事項説明書に記載し、保護者に説明しています。感染症が発生した場合は、園内での感染症蔓延に注意し、保健だよりで保護者に周知し、注意喚起の掲示をしています。地域、最新の感染症情報は、行政（ホットラインから入手し、職員間で情報を共有し、保護者へは掲示、保健だよりで伝えています。職員に対しては、流行時は感染症予防研修を実施し、職員会議、職員連絡ノートや昼の打ち合わせで情報の共有を図り、対応に努めています。
<p>II-2 健康管理・衛生管理・安全管理 [衛生管理]</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●施設運営の手引きの中に衛生管理マニュアルがあり、マニュアルに沿ってチェックリストを作成し、チェックリストに基づいて各保育室、給食室、トイレの清掃を職員で実施しています。また、マニュアルは定期的に見直しを行い、法人本部からの修正箇所も園内で見直しの際に組み入れています。吐しゃ物の消毒剤の調合割合についてはバケツに表示し、何時でも速やかに作れるように備えています。

II-2 健康管理・衛生管理・
安全管理 [安全管理]



●安全管理では、安全管理マニュアルに基づき、事故・災害時の対応について職員に周知しています。保育室内は、低い家具を採用し、備品等の安全対策を講じて転倒防止を行っています。毎月、様々な想定避難訓練を実施し、年1回、避難訓練時に指定避難場所の確認も行っています。また、職員は救命救急研修を受け、緊急時に備えています。

●救急機関、医療機関の連絡先一覧のリストを整え、職員がすぐ対応できるよう事務室に掲示して緊急連絡体制を整えています。災害時の保護者への連絡については、NTTの災害伝言ダイヤル、一斉メールを活用しています。保育中のケガ等の記録については、ケガ報告、事故報告、ヒヤリハットを作成し、職員会議で周知を図り、再発防止に努めています。子どもの事故やケガは、ケガの部位、軽重にかかわらず必ず保護者に連絡を行い、ケガ報告書に記録しています。ヒヤリハットは、公園や散歩先、園内のヒヤリハットマップを作成しています。

●防犯訓練については年数回実施し、内、1回は実践訓練を行っています。門扉とエントランスは電子錠にて、ダブルチェックで安全を確保しています。不審者訓練では、不審者侵入時の伝達方法を決めて全職員で認識を図り、対策を講じています。不審者情報は、泉区役所等からメールで入手し、近隣等からも情報を得ています。

II-3 人権の尊重



●子どもの人権について、『保育所員としての心構え』内の「人権を配慮した保育」に沿って、保育を実践しています。また、年度初めには職員会議で必ず人権について話を行い、確認し合っています。子どもに対しては、個々の気持ちを尊重し、穏やかに話すよう努め、急かしたり強要することはせず、子どもの気持ちを受け入れ、自尊心を傷つけるような否定的な言葉は控え、肯定的な言葉で伝えるように心がけています。また、子どもの呼び方では、名前の呼び捨てを禁じ、全職員で共通認識を図っています。

●友達や保育士の視線を意識せず、1対1で話せる場所としては廊下、相談室、事務室、ラーニングセンターがあり、必要に応じて子どもと落ち着いて話す場として利用しています。日常保育の場面では空間の活用や、仕切りを作り、子どもが落ち着いて穏やかに過ごせる空間作りを行い、保育士の視線を感じないよう配慮しています。乳児クラスでは、成長に合わせて環境設定を行い、一人の遊びを思う存分できるよう配慮しています。

●個人情報の取り扱いや守秘義務については、職員は入社前研修テキストに沿って研修を受け、意義・目的を理解し、誓約書を提出しています。保護者に対しては、年度初めに需要事項説明書に沿って個人情報の取り扱い（肖像権等）の確認を行い、同意を得ています。個人情報が記載されている文書・記録は、事務室の施

	<p>錠できるキャビネットに保管、管理しています。</p> <p>●性差に関する配慮では、全園児が平等に活動できるよう、遊びや行事の役割、持ち物や服装での区別、順番、グループ分けや整列も性別で分けすることはせず、遊びや役割等については子どもたちの意見を尊重しています。職員は、無意識に性差による固定観念で保育をしないように心得ています。</p>
<p>II-4 保護者との交流・連携</p> 	<p>●保育理念・保育目標は、園のしおり、パンフレット、ホームページに掲載して伝え、保護者に対しては入所前説明会や年度の始めの保護者会で、重要事項説明書に沿って説明し、同意を得ています。全体懇談会、クラス懇談会では1年間の保育目標を伝え、園だよりにより各クラスの養護・教育目標を記載して伝え、保護者へ理解を促しています。また、保護者参加の行事後にはアンケートを実施し、意見を聞き、保育目標等が理解されているかを確認しています。</p> <p>●園生活での子どもの様子や活動内容は、連絡帳を活用して伝え、送迎時はクラスノートで引き継ぎ内容を保護者へ伝達し、口頭でも伝えるよう努めています。また、クラス別のホワイトボードにその日の様子を記入し、活動内容を伝えています。保護者との連絡、伝達事項は、昼の打合せで情報を共有し、職員連絡ノートで連絡するように努め、担任が対応できない場合は遅番職員が必ず伝えるようにしています。</p> <p>●個人面談は個人面談月間を定め、保護者の都合を考慮し、送迎時に時間を決めて全保護者に実施するようにしています。保護者懇談会は年2回（春・年度末）行って意向等を把握しています。保護者からの相談については、相談室を使用し、プライバシーを確保できるように配慮しています。相談は担任を窓口とし、適宜、園長から助言を受け、基本的に園長または主任が同席して複数で行い、適切に対応できるよう体制を整えています。相談内容は記録し、継続的にフォローするようにしています。</p> <p>●園生活に関する情報は、園だより、クラスだより、保健だより、給食だよりを発行し、ブログの更新や写真販売等で保育内容がわかるよう情報を発信しています。その日の保育については連絡帳、各クラスのホワイトボードで知らせています。4月の保護者会（全体およびクラス懇談会）では、1年間のクラス目標、内容を分かりやすい資料として配付および説明を行っています。また、行事等の写真は販売会社によりインターネットで購入できるようにしています。</p> <p>●年間行事予定表は事前に配布し、保護者が予定を立てやすいように配慮し、園だよりでも伝えていきます。保護者の保育参加については、5月頃に参加月間を設けて実施し、期間以外も保護者の都合に合わせて応じる等、全保護者が参加できるよう案内してい</p>

	<p>ます。園では、保育参観は土曜日に設定し、保育参加は平日に実施しています。</p> <p>●保護者の自主的組織は現状、保護者から希望や要請を受けていないので設けていませんが、体制は整えています。園主催の運営委員会では各クラスの保護者代表が出席し、意見を聞き、卒園後の謝恩会の打合せ等には場所の提供をしています。園長は、保護者とコミュニケーションを図り、意見交換が言いやすい雰囲気作りや、環境作りに努めています。</p>
--	---

評価領域 III 地域支援機能評価領域

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>III-1 地域のニーズに応じた子育て支援サービスの提供</p> 	<p>●園長は、泉区の園長会議に出席して情報を収集し、緑園社会福祉協議会の理事と連携を図り、情報提供および活動（ふれあい祭り）の協働を行い、地域のニーズを把握する機会を得ています。地域との交流では、高齢者施設において高齢者が集う「井戸端会議」に訪問し、子ども達が歌を披露して楽しい時間を共有したり、園に来訪いただく等、交流を図っています。また、自治会に加入し、「世話人会」に職員を講師で派遣し、地域の方と交流を深めています。泉区の保育園と連携を図り、子育て支援の会合での研修会に看護師を派遣し、感染症について講習を行う等、情報交換を行っています。子育て支援のニーズについては、育児支援事業を通して、地域の保護者に要望等を聞いています。</p> <p>●地域の子育て支援では、毎月、泉区育児支援事業を行い、地域の子育て親子に向けた行事を計画し、提供しています。小学館アカデミーりよくえんとし保育園では、交流保育、園庭開放、施設開放、育児講座を実施し、さらに、毎月のお誕生会やハロウィンの際に地域の方に案内をして積極的に交流を図り、入園相談、園見学も受けています。</p>
<p>III-2 保育園の専門性を活かした相談機能</p> 	<p>●地域住民に対する園の情報提供では、泉区の子育て情報サイト、広報よこはま泉区版等に掲載して情報提供しています。相談事業については泉区の広報誌や、ホームページに子育て相談の案内、園の紹介を掲載し、育児相談に応じる旨を発信しています。また、地域の子育て親子に対して、お誕生会への参加や見学者を募り、情報提供に努めています。小学館アカデミーりよくえんとし保育園は、子育て支援拠点として設定および共催を行い、育児相談では育児・健康の両面から相談に応じています。</p> <p>●関係機関・団体等の連絡先リストを作成し、事務室に掲示し、職員で共有しています。関係機関（泉区こども家庭支援課・泉区保健センターの保健師・嘱託医・近隣小学校・子育て支援センタ</p>

	<p>一・横浜市戸塚地域療育センター・児童相談所・警察・消防署等)との担当は園長とし、園長不在の際も対応できる体制を整えています。泉区保健センターの保健師とは相談等で連携を図り、健診時には来園もしてもらっています。</p>
--	---

評価領域 IV 開かれた運営

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>IV-1 保育園の地域開放・地域コミュニティへの働きかけ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●地域への園の理解促進のための取り組みとして、地域の町内会への加入を通して交流を図り、緑園社会福祉協議会の「ふれあい祭り」や、地域の運動会に参加し、高齢者施設への訪問等で交流を深めています。年長児は、緑園西小学校の1年生、5年生と交流する機会を持ち、地域の保育園とは年間交流計画を企画し、交流を図っています。また、幼保小会議を通じて各機関と連携を図り、幼保小が主催する研修には年長児担任が参加し、友好的な関係作りに努めています。 ●子どもと地域との交流では、近隣の畑でさつま芋掘りをさせてもらい、さつま芋パーティを開いて地域の自然、人々に親しみ、ハーモニカ演奏での「東花会」の方々の来園や、近隣の高齢者からお正月の昔遊びを教わる等、地域の様々な人と良好な関係を構築して交流を深めています。散歩時には地域の人たちと挨拶を交わし、交流を行っています。また、神奈川県リクリエーション協会にボランティアを依頼し、子ども達、祖父母と一緒に楽しむ機会を設けています。
<p>IV-2 サービス内容等に関する情報提供</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●園のサービス内容・保育方針などの情報提供は、園のホームページやパンフレット、泉区の広報誌に園の詳細を掲載し、横浜市の「ヨコハマはびねすぽっと」にも情報を提供しています。見学者や来園者には保育内容を記載したパンフレットを配付して案内し、質問に対して丁寧に対応し、職員体制・サービス内容の詳細、料金についても伝えています。 ●園についての問い合わせについては、常時対応できる体制を整え、園見学は基本、第2・第3の水曜日、1日3組程度を設定しています。また、必要に応じて別曜日や、1日に2回～3回実施する等、状況に応じて柔軟に対応しています。
<p>IV-3 ボランティア・実習の受け入れ</p> 	<ul style="list-style-type: none"> ●小学館アカデミー園としてのボランティアの受け入れマニュアルがあり、職員に周知しています。受け入れの際は事前に園の方針、利用者への配慮等を説明し、体制を整えています。ボランティアは、保育学校の学生や、保育士資格取得前の方、中学生や高校生の職業体験等を受け入れています。ボランティア終了後は感想や意見をもらい、園運営に生かしています。

	<p>●小学館アカデミー園としての実習生の受け入れマニュアルがあり、事前にマニュアルに沿ってオリエンテーションを行い、理念、基本方針、活動内容、利用者への配慮、留意事項を十分説明して理解を促しています。実習生では大学生や、短期大学卒業前の責任実習の学生を受け入れ、実習の期間中は、1日の終わりに振り返りを行い、意見交換を行っています。</p>
--	---

評価領域 V 人材育成・援助技術の向上

評価分類	評価の理由(コメント)
<p>V-1 職員の人材育成</p> 	<p>●人材の採用、人員体制に関しては、法人本部で一括採用を行い、法人本部の採用育成課が主体となり採用年間計画を策定して園ごとのバランスを加味し、新卒・国家試験・復職・現職・遠隔地に分け、戦略を立てて人材の確保に取り組んでいます。人員体制については、小学館アカデミー保育園に勤める職員として求められる職員像及び、その中での行動目標を求めています。職員の行動規範は、4分冊に分割した施設運営の手引きに詳細に記載され、保育の実践に規範となる内容になっています。人材育成については、法人で研修計画を策定し、計画に沿って該当職員は参加しています。また、人事考課制度により個人別の目標設定や、能力向上シートを作成し、目標の達成状況を面接で確認し、評価を行い、職員の資質向上を図っています。</p> <p>●研修体制については、定期的に園内研修を実施し、主任が「どらキッズ」(法人本部幼児教育部門)出身でもあり、楽習保育®の教育環境整備に力を入れて資質向上に取り組んでいます。常勤職員については、園内研修での研修報告を作成し、資料は配付して周知を図り、外部研修を受講した際は研修報告書を1週間閲覧できるようにして共有化を図り、保育の実践につなげています。また、職員自身の希望による外部有料研修については、補助金を提供して奨励し、資質の向上に取り組んでいます。園では、27年度から横浜市作成の保育士の自己評価を実施しています。非常勤職員の研修については、園内研修への参加を促し、資料を配付し、職員会議での説明および報告書の閲覧にて共通理解を図り、資の向上につなげています。</p> <p>●非常勤職員の配置や業務内容については、正規職員との配置を必ず行い、業務の流れもわかりやすく示しています。また、必要な知識・情報を提供し、職員間の情報共有は職員連絡ノートにて確認を徹底し、コミュニケーションを図りながら円滑に保育を進めています。</p>

V-2 職員の技術の向上



●横浜市作成の保育所の自己評価、保育士自己評価を実施し、職員会議等で日々の保育の振り返りを行い、改善に努めています。職員の技術指導については、法人本部の研修または外部研修に参加して研鑽を図り、法人本部のアドバイザーからも指導を受けています。

●職員の自己評価は、横浜市の保育士自己評価票および個人能力向上シートを活用して自己評価に取り組み、クラスの年間保育計画に沿って振り返り、指導計画の保育のねらいを基に、子どもの活動内容、子どもの育ちや意欲、取り組む過程等を大切に月案、日案の反省を行い、業務改善やその後の計画作成に反映させています。

●保育所の自己評価については、第三者評価を受審し、園の課題、改善に向けて取り組み、利用者アンケートの結果を基に今後の課題等を話し合い、次年度の課題として生かしています。評価結果は職員に示し、ホームページで公開し、保護者にもエントランスに開示しています。

V-3 職員のモチベーション維持



●人事考課制度があり、職務分担表により係り・担当を細分化し、ある程度の権限委譲を示し、各職員に合った業務ができるよう配慮して役割を明確にしています。業務改善については、個別に提言を受けた内容を昼の打合せで共有し、行事後には職員にアンケートを実施し、集計を行い、結果を職員会議で話し合い、次年度の計画に組み込み、改善に努めています。園では、園独自に改善におけるルールを設け、園長から法人本部の意向を含めて職員に伝え、計画に組み入れた内容は担当を決めて展開をしています。また、年2回、自己評価を中心に園長は職員と面接を行い、個々の目標を共有し、達成状況等の意見交換を図り、職員の満足度、要望を把握し、評価により昇格・昇給・賞与に連動させています。

評価領域 VI 経営管理

評価分類

評価の理由(コメント)

VI-1 経営における社会的責任



●職員の守るべき法・規範・倫理等は、施設運営の手引きの中に明示され、保育士倫理綱領や就業規則、職員マニュアルを備え、職員は入社前研修を受け、守るべき倫理を遵守しています。経営、運営状況等の情報は、ホームページ等で一部開示しています。リスクマネジメントについては、会議で他施設の事例等について検討および周知し、守るべき規範について再確認しています。さらに、虐待例、SIDS 事例等も入手して情報共有を図っています。また、法人本部で提携している情報提供会社アイギス

から事例等の提供を受け、職員会議等で話し合い、検討の機会を設けています。

●環境整備では、昨年度、横浜市自然循環局に依頼してゴミのリサイクルについて省資源のキャラクターイーオちゃん、ミーオちゃんに来園してもらい、ゴミの分別、3R 夢（スリム）について子ども達は学びました。園全体でヨコハマ 3R 夢（スリム）方針を意識し、職員マニュアルに沿って園内の温湿度を保ち、節電、分別、ゴミの減量を心がけ、プランターで花や野菜栽培による緑化促進を図り、ビオトープを中心に環境への配慮に努めています。保育では、コピー用紙の裏紙の再利用や、牛乳パック、廃材を使用した活動を行う等、リサイクルの意識を高め、園全体で環境への取り組みを行っています。

VI-2 施設長のリーダーシップ・主任の役割等



●理念・基本方針は職員マニュアルに明文化し、園内に複数箇所掲示して保護者・職員が常に目に触れるようにし、保育目標、園目標も掲げています。職員に対しては、職員会議で読み合わせを行い、職員面談でも理念について確認を行い、意識統一に努めています。園長は、職員に問題点等があった際は、基本方針に立ち返り、法人の社員であることを認識するよう教育しています。

●重要な意思決定については、保護者全体懇談会を開催して目的・決定（変更）理由、経過等を説明しています。通常の変更に係る決定については、運営委員会で知らせ、保護者、職員から意見を聞いています。また、重大な変更については、専門職も含む職員がチームを組み、プロジェクトを立ち上げて取り組み、より良い園作りに尽力しています。

●園長は、人材育成に取り組み、次期リーダーの育成に努めています。また、職員のメンタル面に配慮し、ステップアップの機会を提供し、職員のモチベーションに配慮しています。主任は、職員のシフト作成を担当し、業務状況を把握し、個々の精神面、肉体面について相談、助言を行い、園長と相談しながら配置設定を行い、円滑な業務につなげています。

VI-3 効率的な運営



●園の運営面に直接影響のある取り組みでは、横浜市、泉区役所、緑園社会福祉協議会、法人本部等を通じて、保育業界や国の保育施策等の情報を収集し、全職員に周知しています。また、法人本部と提携している情報提供会社からの報告や、保育業界ニュース等の情報は園全体で検討し、保育に生かしています。また、育児支援事業実施により地域の保護者からニーズを把握し、今後の事業に役立てています。重要な情報については、園全体で重点課題として設定し、全職員で話し合って取り組んでいます。例えば、今年度から、法人系列全園で「英語あそび」を導入され、英語の絵本、教材、DVDを活用し、小学館アカデミー独自の楽習保育®の中に“英語”を位置づけて展開しています。小学館アカデミー

りょくえんとし保育園では、育児支援事業においても「英語あそび」を取り入れ、地域に PR して情報も収集しながら取り組んでいます。

●理念、基本方針の実現に向けて、法人で中・長期計画を策定し、中・長期計画に沿って園で単年度の事業計画を作成し、さらに園内プロジェクトに展開して実現に向けています。法人本部では、人材の確保、階層別職員の教育、即戦力なる職員の異動等、次代を担う職員の研修等を行い、職員のスキルアップを目指しています。外部の機関や専門家などのアドバイスでは、明治安田こころの財団の助言等や、情報提供会社からの情報を活用し、泉区保育園センターの保健師から指導・助言を受けより良い園運営に生かしています。

小学館アカデミー りょくえんとし保育園

(株)R-CORPORATION

*観察調査日	平成28年10月4日・5日
*保育観察	保育園を調査員2名で全園児の観察を行いました。調査当日は、お誕生会と運動会のリハーサル日でもあり、活動を通して子ども達の姿を観察し、保育士の関わり方、生活の様子を観察を行いました。各年齢については調査当日の活動の観察を通してそれぞれの特徴を捉えて記しています。

■0歳～5歳の子どもの様子・保育の様子

<お誕生会と運動会のリハーサル>

●調査1日目はお誕生会が全年齢で行われ、2日目は運動会のリハーサル日とし、お散歩は控えるプログラム構成でした。小学館アカデミー りょくえんとし保育園の本人調査については、実施された行事を通して子ども達の姿を観察した調査結果として記します。

小学館アカデミー りょくえんとし保育園では、園庭開放や施設開放の参加者に声を掛け、地域子育て支援事業の1つとして、地域の近隣の子どもの誕生日にお誕生日会に招待しています。調査当日は、1歳児の地域の親子が2組参加していました。園では、事前に園で行うお誕生会のご案内を配付し、地域の親子から申込みを受けて園児と一緒に祝いをしています。園児は地域の親子も自然に受け入れ、地域のお友達もたくさんのお祝いを受け、笑顔いっぱいのお誕生日会が開催されました。

<全園児（0歳～5歳児）で「お誕生日会」の日>

●今月のお誕生日会の子ども達は5人です。2歳児が3人、3歳児が2人、そして、地域のお誕生日の子ども1歳児が2人、合計7名のお友達をみなでお祝いしました。お誕生日会は10時から開催され、たくさん子ども達で楽しいお祝いの日として、祝われる子ども、祝う子ども一人一人の表情も生き生きとうれしそうでした。

お誕生日会は4歳、5歳児の保育士のパーテーションを外して大きな部屋にして実施され、「お誕生日席」に今月の誕生日の子どもたちと、地域の子どもの一緒に並ぶ席が用意され、0才児、1歳～3歳児が祝う席（シート）に座り、その後ろには4歳・5歳児が椅子にお行儀よく

座り、皆はワクワクして時を待っていました。司会の保育士の声かけで、お誕生日の子ども達が、恥ずかしそうにまた、晴れがましく前に並びます。お誕生日の子ども達へのインタビューでは、保育士が「お名前は?」、「何歳になりましたか?」と一人一人に聞き、3歳児はお誕生日を迎えるので、「いちご組、〇〇 〇、4歳です!」と得意気に答えていました。用意された模型のケーキには、一人一人の歳の数だけ見立てたローソクが立ち、それぞれが吹き消していき、2歳の子どもは3本のローソクを、3歳の子どもは4本のローソクをうれしそうに消し、皆から笑顔と共に拍手をもらいました。毎年、1回主役になって特別感を抱き、お祝いする子ども達も祝福し、場は喜びで一体感が溢れていました。最後には保育士から誕生日プレゼントを贈呈し、お誕生日の子どもはその中身をみんなに見せてとても上機嫌で、少し恥ずかしく嬉しい笑顔が溢れていました。プレゼントが渡される時は、担任の保育士から誕生日の子どものプロフィールを紹介し、「歌とお話が上手な子です」、「〇〇くんはブロックが大好きです」、「運動がとても得意です」、「パズルとお絵かきが大好きな女の子です」等、一人一人の良い所を皆に伝えて行き、その子を知っている子どもや、一緒に遊んだことがある子どもなど、笑ったり、うなずいたり、聞く子ども達の表情もうれしそうでした。ます。終盤には各クラスから歌のプレゼントがあり、4歳児(ぶどう組)は、全員が一礼してから「トンボのメガネ」を歌い、5歳児(めろん組)は、「どんぐりころころ・松ぼっくり」の歌をプレゼントしました。お誕生日会が終わった後は、順に保育室に戻り、食事を楽しみました。0歳児は保育士に抱っこやおんぶしてもらい、最後まで参加して一員となってお祝いをしていました。午後からは自由遊びをそれぞれのクラスで興味のある遊びを思い思いに玩具やお絵かきをしながら過ごしました。

<運動会に向けて全園児(0歳~5歳児)でのリハーサル>

●調査2日目は、運動会に向けたリハーサルの日として0歳~5歳で一緒に行いました。前日同様に4歳、5歳児の保育室のパーテーションを外して大きな部屋を運動会場に見立ててリハーサルを行いました。保育士がマイクで司会・進行を行い、プログラム順に年齢ごとに本番さながらの進行が進められました。始まりは0歳児(もも組)の入場です。保育士が作った衣装を身に着けて歩き、皆から「かわいい!」の声が届きます。次プログラムの障害物競争は4歳児(ぶどう組)と5歳児(めろん組)が出場し、障害物は「跳び箱」と「鉄棒」とし、4歳児(ぶどう組)では、跳び箱3段を友達と手を着いて超えていき、鉄棒は足でぶら下がり、手を放す・前まわり・こうもり降りの競技を行い、ゴールを目指します。運動会も近いので練習の成果で跳び箱、鉄棒ができる子どもがほとんどでした。一人一人の顔は真剣に取り組んでいました。5歳児(めろん組)は、跳び箱を4段に増やし、年長児なので1段高く跳べるのは得意満面の様子で、得意気な気持ちと満足感が伝わります。殆どの子どもが鉄棒の前まわりができており、逆上がりができる子どももいました。日々の成果と子ども達も「好き」、「得意」の声が聞かれ、きっと本番も大丈夫でしょう!1歳児(ばなな組)は、「ばなくん体操」のお遊戯を披露し、保育士と一緒に手をつないで輪になり、曲に合わせて回ったり手をたたいて踊ります。お遊戯ではちゃんとできる子どもや、恥ずかしくてもたもたする子、泣いて保育士に抱っこしてもらおう子ども等、自我の芽生えと共にご機嫌もまちまちでしたが保育士は子どもを尊重して無理強いすることなく楽しめるように促してい

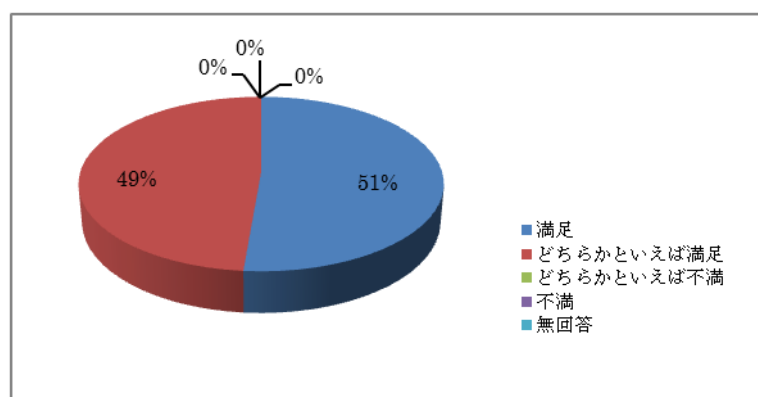
ました。次に、2歳児（いちご組）は、腰みのを身につけ登場しました。膝を「ぽんぽん」と叩いて「ポーズ！」をとり、保育士の誘導で2歳児子ども達は上手にポーズができており、一人一人のポーズにも特徴があり豊かな表情で見る側を楽しませてくれました。1歳児（ばなな組）が再度出番となり、今度は競技です。マットで作られた山に登り、小さな山の上に置いてあるカラーカードを取り、トンネルをくぐって、同じ色のボールを持って帰ってきます。難関なようにも思いましたが、1歳児ですが手順を覚え、ちゃんとカードと同じ色のボールを取って帰って来ます。中には、トンネルが「こわい!」、お山に登るは不安だったり、保育士の援助で頑張っってやり遂げていました。プログラムの保護者も交えた玉入れでは、保育士が大集合して子どもたちと一緒に楽しく玉入れを行い、一生懸命がんばって玉を入れ、玉ばかりを集める子や、籠の下から入れることだけを考えて取り組む子、ゆっくり投げる子、遠くから見てる子等、様々でしたが、皆で入った玉の数を数える時は皆で大きな声をだして「いーち、にーい、さあーん」ととても嬉しそうでした。最後は、3歳児（みかん組）のお遊戯で「はないきもんめ」を踊り、それぞれ豊かに表現できる3歳児達で、2人踊らない子がいましたが、そろそろお腹もすく時間、眠くなる時間だったり子どもらしい姿を見ることができました。リハーサル終了後はそれぞれ保育室に戻り、いっぱい体を動かしたのでおいしく食事を行うことができました。運動会当日は子ども達はこの日の成果を発揮することでしょう。

【小学館アカデミーりょくえんとし保育園 利用者アンケートの特徴】

実施年度 / 評価項目手法	28年度 / 横浜市版
アンケート調査対象	保育園利用者家族 (世帯数 49)
有効回答数	37 世帯
世帯総数に対する回答者割合 (%)	76%

0 歳児	1 歳児	2 歳児	3 歳児	4 歳児	5 歳児
6 世帯	6 世帯	6 世帯	8 世帯	4 世帯	6 世帯

* 回答があった利用者満足度の内訳 (%)



●利用者アンケートの特徴として、『満足』、『どちらかといえば満足』を合わせて（以下、ほぼ満足）、100%ほぼ満足している項目は、問2「入園する時の状況について」の「園の目標や方針についての説明」について満足54%、どちらかといえば満足46%にてほぼ満足は100%であり、問4「日常の保育内容について」の「遊びを通じた友だちとの関わりや保育士との関係」について（満足54%・どちらかといえば満足46%）、「給食の献立内容」について（満足62%・どちらかといえば満足38%）の項目がほぼ満足100%を示しています。そして、問7「職員の対応について」では、「あなたのお子さんが大切にされているか」について（満足62%・どちらかといえば満足38%）、「あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるか」について（満足73%・どちらかといえば満足27%）、職員が「話しやすい雰囲気、態度であるか」について（満足57%・どちらかといえば満足43%）等が挙げられ、設問の中でほぼ満足100%として「職員の対応」が一番多かった回答でした。さらに、100%ほぼ満足ではないが、概ね不満（不満・どちらかといえば不満）が0%の項目は、「見学の受け入れについて」、「遊びを通じた友だちとの関わりや保育士との関係について」、「お子さんが給食を楽しんでいるかについて」、「昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されているかなどについて」、「おむつはずしは家庭と協力しお子さんの成長に合わせて柔軟に進めているかについて」と「お子さんの体調への気配りについて」等、日常の保育内容での「遊び」・「生活」の面について、保護者から「ほぼ満足」の回答が多く得られているのも特徴です。また、「保育園の快適さや安全対策」、「職員の対応」についても評価が高く、「職員の対応について」は全設問の中、不満は0%となっています。全体から見ると、相対的に「ほぼ満足」の数字が高く、特に、日常の保育内容、職員の対応については保護者から高い評価が多く、日々の園・職員の努力、取り組みが反映されている結果だと考えられます。

●利用者アンケートの自由記述からは、「忙しい朝の時間の準備はとても保護者を思い、やりやすくなっており、他の園よりとても良いと感動しています」、「サービス内容 先生(保育士)方の子どもたちへの接し方等とても満足しています」、「子どもは伸び伸びと、上下のクラスも仲良く、とても良い環境です」、「子どもにとっても安心して過ごせる場になっているのと感じています」、「先生(保育士)方には感謝しています」、「毎日楽しく過ごしているのは園長先生や他の先生(保育士)方のお蔭で、良い環境に恵まれ感謝しています」、「子どもが保育園生活をとても楽しんでます」、「先生(保育士)もよく子どものことを気遣ってくれていて親もとても満足しています」、「職員の方は皆親切で有難いです」等、多くの喜びと感謝の声が挙がっています。アンケート結果においても、職員の対応については全体的に高評価を得ており、園長先生を初めとする先生(保育士)方へのお礼の言葉が多く、保護者の満足度の高い保育園であることが捉えられます。

●『不満』については、問4「日常の保育内容について」の「子どもが戸外遊びを十分しているか」についてが、どちらかといえば不満が32%となっており、満足度の高い園としては比較的高い数字であり、「ほぼ満足」に関してはこの項目だけが68%と、70%を切っているのが目を引きます。他、「概ね不満」とする数字が15%以上の項目は、問2「入園する時の状況について」の「費用やきまりに関する説明」について（どちらかといえば不満14%・不満3%）、問5「保育園の快適さや安全対策などについて」の「感染症の発生状況や注意事項などの情報提供について」（どちらかといえば不満19%）、そして問6「園と保護者との連携・交流について」の「送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明」について（どちらかといえば不満14%・不満3%）等が挙げられます。これらの項目については、保護者への説明、情報提供がキーポイントになっていると思われますので、職員の対応力が高い支持を得ている保育園の良い点を生かせば、不満を「満足」に変えていける力のある保育園だと思います。尚、この3項目についての「ほぼ満足」は、いずれも80%を上回っていることも付け加えておきます。

●利用者アンケートからの意見では、「方針として決まっていることはレジュメにして配布して欲しい」、「タイムカード打刻での稀なミスは配慮して欲しい」、「捕食はおにぎりの日が多いが、お煎餅との差に考慮して欲しい」、「園内の綿埃の掃除、教室内の整頓、地震の際の落下物・飛散物への心配」、「連絡帳等で日々の子どもの様子について記述が欲しい」、「週に一回でも良いので連絡帳を書いて欲しい」、「プールの回数が少ない」、「送迎の駐車場の問題等、園だけの対応ではなく運営母体の方でも考えて欲しい」等、意見をいただいています。説明や情報提供、清潔さに関する意見、個別に関する意見は、園や保育士のさらなる努力で解消できる点だと思いますので、振り返り、工夫等、再度検討する機会を得て欲しいと思います。送迎の駐車場の問題等については、近隣と絡む事柄でもあり、今後共生することを懸念し、問題への解決を期待いたします。

●総合的評価は、『満足』は51%の支持をいただき、『どちらかといえば満足』は49%であり、『ほぼ満足』は100%となっています。「不満」や「その他」は0%であり、レベルの高い保育園であると捉えることができます。

利用者調査項目（アンケート）

小学館アカデミー りよくえんとし保育園

【保育園の基本理念や基本方針について】

上段%、下段人数で示しています

問 1

利用者調査項目		よく知って いる	まあ知っ ている	どちらとも いえない	あまり 知らない	まったく 知らない	無回答
1	あなたは、この園の保育目標・保育方針をご存じですか。	30%	54%	11%	3%	0%	3%
		11	20	4	1	0	1
		賛同でき る	まあ賛同 できる	どちらとも いえない	あまり賛同 できない	賛同でき ない	無回答
2	あなたは、その保育目標や保育方針は賛同できるものだと思いますか。	65%	25%	0%	0%	0%	11%
		24	9	0	0	0	4

【保育園のサービス内容について】

問 2 入園する時の状況について

		満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
3	見学の受け入れについては	57%	30%	0%	0%	14%	0%
		21	11	0	0	5	0
4	入園前の見学や説明など、園からの情報提供については	49%	43%	5%	0%	3%	0%
		18	16	2	0	1	0
5	園の目標や方針についての説明には	54%	46%	0%	0%	0%	0%
		20	17	0	0	0	0
6	入園時の面接で、お子さんの様子や生育歴などを聞く対応については	68%	30%	3%	0%	0%	0%
		25	11	1	0	0	0
7	保育園での1日の過ごし方についての説明には	49%	46%	5%	0%	0%	0%
		18	17	2	0	0	0
8	費用やきまりに関する説明については	54%	30%	14%	3%	0%	0%
		20	11	5	1	0	0

問 3 保育園に関する年間の計画について

9	年間の保育や行事についての説明は	35%	62%	0%	3%	0%	0%
		13	23	0	1	0	0
10	年間の保育や行事に、保護者の要望が活かされているかについては	38%	51%	0%	3%	8%	0%
		14	19	0	1	3	0

問 4 日常の保育内容について

「遊び」について

		満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
11	クラスの活動や遊びについては (お子様が満足しているかどうか)	49%	43%	5%	0%	3%	0%
		18	16	2	0	1	0
12	子どもが戸外遊びを十分しているかについては	41%	27%	32%	0%	0%	0%
		15	10	12	0	0	0
13	園のおもちゃや教材については(お子さんが自由に 使えるように置いてある、年齢にふさわしいかなど)	57%	38%	3%	0%	3%	0%
		21	14	1	0	1	0
14	自然に触れたり地域に係わるなどの、園外活動に ついては	51%	38%	5%	3%	0%	3%
		19	14	2	1	0	1
15	遊びを通じた友達との関わりや、保育士との関係に ついては	54%	46%	0%	0%	0%	0%
		20	17	0	0	0	0
16	遊びを通じたお子さんの健康づくりへの取り組みに ついては	43%	54%	3%	0%	0%	0%
		16	20	1	0	0	0

「生活」について

17	給食の献立内容については	62%	38%	0%	0%	0%	0%
		23	14	0	0	0	0
18	お子さんが給食を楽しんでいるかについては	59%	35%	0%	0%	5%	0%
		22	13	0	0	2	0
19	基本的な生活習慣(衣服の着脱、手洗いなど)の自 立に向けての取り組みについては	57%	38%	3%	0%	3%	0%
		21	14	1	0	1	0
20	昼寝や休憩がお子さんの状況に応じて対応されて いるかなどについては	57%	41%	0%	0%	3%	0%
		21	15	0	0	1	0
21	おむつはずしは、家庭と協力しお子さんの成長に合 わせて柔軟に進めているかについては	49%	43%	0%	0%	3%	5%
		18	16	0	0	1	2
22	お子さんの体調への気配りについては	59%	38%	0%	0%	3%	0%
		22	14	0	0	1	0
23	保育中にあったケガに関する保育者への説明やそ の後の対応には	46%	41%	5%	0%	8%	0%
		17	15	2	0	3	0

問 5 保育園の快適さや安全対策については

24	施設設備については	49%	46%	0%	0%	5%	0%
		18	17	0	0	2	0
25	お子さんが落ちついて過ごせる雰囲気については	54%	41%	5%	0%	0%	0%
		20	15	2	0	0	0

		満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	その他	無回答
26	外部からの不審者侵入に対する備えについては	38%	51%	8%	0%	3%	0%
		14	19	3	0	1	0
27	感染症の発生状況や注意事項などの情報提供については	51%	30%	19%	0%	0%	0%
		19	11	7	0	0	0

問6 園と保護者との連携・交流について

28	保護者懇談会や個別面談などによる話し合いの機会については	43%	43%	11%	0%	3%	0%
		16	16	4	0	1	0
29	園便りや掲示などによる園の様子や行事に関する情報提供については	57%	41%	3%	0%	0%	0%
		21	15	1	0	0	0
30	園の行事の開催日や時間帯への配慮については	51%	38%	8%	3%	0%	0%
		19	14	3	1	0	0
31	送り迎えの際のお子さんの様子に関する説明については	35%	49%	14%	3%	0%	0%
		13	18	5	1	0	0
32	お子さんの関する重要な情報に連絡体制については	35%	59%	3%	0%	3%	0%
		13	22	1	0	0	0
33	保護者からの相談事への対応には	49%	43%	5%	0%	3%	0%
		18	16	2	0	1	0
34	開所時間内であれば柔軟に対応してくれるなど、残業などで迎えが遅くなる場合の対応には	49%	35%	8%	3%	5%	0%
		18	13	3	1	2	0

問7 職員の対応について

35	あなたのお子さんは大切にされているかについては	62%	38%	0%	0%	0%	0%
		23	14	0	0	0	0
36	あなたのお子さんが保育園生活を楽しんでいるかについては	73%	27%	0%	0%	0%	0%
		27	10	0	0	0	0
37	アレルギーのあるお子さんや障害のあるお子さんへの配慮については	35%	38%	0%	0%	19%	8%
		13	14	0	0	7	3
38	話しやすい雰囲気、態度であるかどうかについては	57%	43%	0%	0%	0%	0%
		21	16	0	0	0	0
39	意見や要望への対応については	49%	49%	0%	0%	3%	0%
		18	18	0	0	1	0

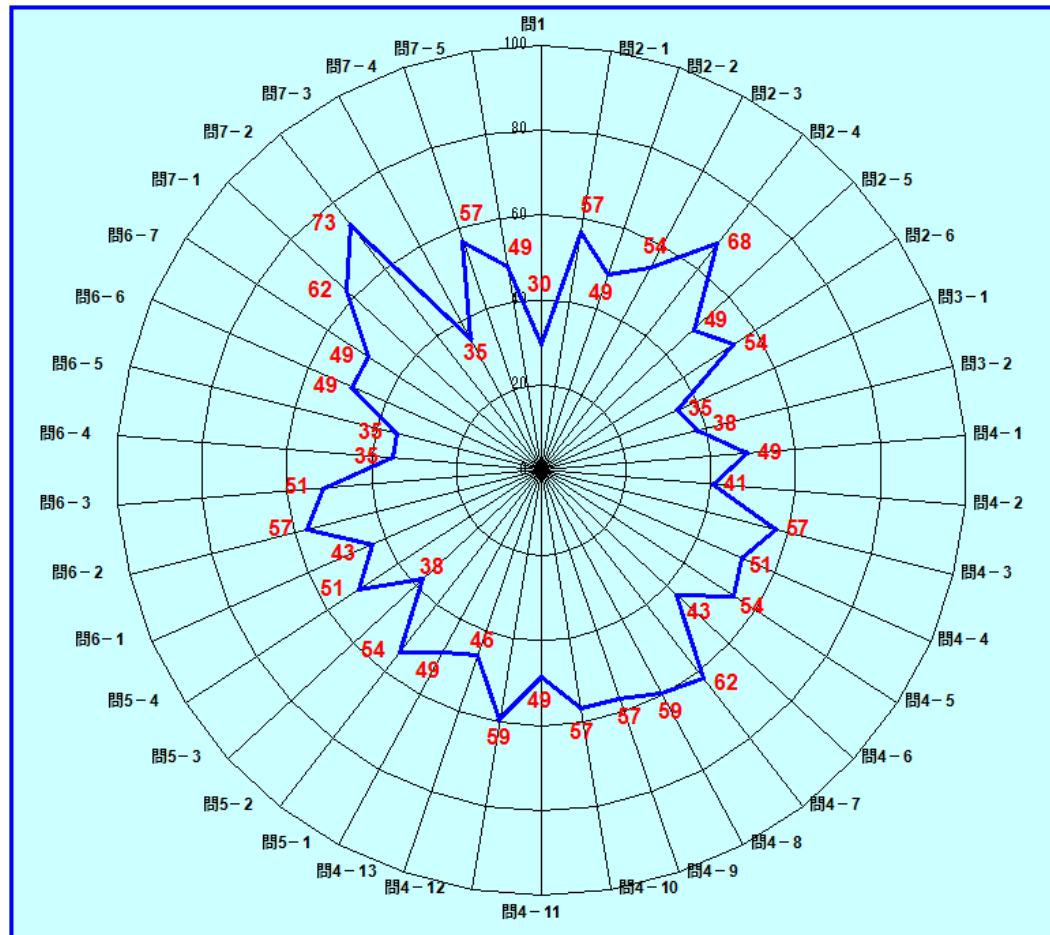
問8 保育園の総合評価

		満足	どちらかと いえば満足	どちらかと いえば不満	不満	無回答
40	総合満足度は	51%	49%	0%	0%	0%
		19	18	0	0	0

保護者アンケート調査結果（設問別「満足度」総合）

（注）レーダー数値は設問別「満足度」回答率（小数点以下は四捨五入）

調査対象園舎： 小学館アカデミーりよくえんとし保育園	横浜市泉区緑園 2-2-3
回答世帯数：49 世帯中 37 世帯 <0 歳児(6 世帯)、1 歳児(6 世帯)、2 歳児(6 世帯)、3 歳児(8 世帯)、4 歳児(4 世帯)、5 歳児(6 世帯)、未記入(1 世帯)>	
定 員： 60 名	調査期間： 2016/09/1 ~ 2016/10/05



事業者コメント

施設名：小学館アカデミーりょくえんとし保育園

<評価に取り組んだ感想>

最初は評価で良くない結果が出るのではないかと不安がありました。でも、職員会議の中で「うちの園は開園から5年が経ち大きな事故もなく保育ができています。今回この評価を受ける事により、課題が見つかるのならそれはありがたいことであり、皆で保育について話し合えるチャンスである」という気持ちを共有して臨むことができました。

評価後は自園の保育を保護者様にご理解くださっていることに深く感謝すると共に、今回出てきた課題について職員、会社と話し合い、より良い保育ができるようにしていきたい。

<評価後取り組んだ事として>

課題となっている点について改善できる点

- ・夕補食のメニューのばらつきについては、毎日おにぎりを提供させていただくことに変更しました。
- ・廊下や階段が塵や埃があった点については、掃除の回数を増やす事にしました。
(午睡時と閉園時)
- ・プールの回数が少なかった点については、プール開きの時期を早めました。
- ・戸外あそびが少ない点については、幼児クラスは引率職員が多く安全であれば午前と午後に散歩に行くようにした。

以上

上記のことを新たに取り組んでいます。